

## 都我 剛之 さん

### 【動機】

現在、インターネットメディア・フリーマガジンなどの企画・広告営業に従事しています。現在の仕事を通じて様々なお取引先様とお仕事をさせて頂く中で、よりビジネスのことを体系的に幅広く知りたいと思うようになったこと、また、手に職に成り得るものを持っておきたいと思ったこと、などが受験の動機です。

### 【受験暦】

- ・2011年4月:1次試験3科目勉強開始(経済学・経営法務・経営情報システム)
- ・2011年8月:1次試験3科目合格
- ・2011年9月:1次試験4科目勉強開始(上記3科目以外)
- ・2012年8月:1次試験4科目合格=1次試験合格
- ・2012年12月:2次筆記試験不合格(AACC=B)
- ・2013年1月:MMCにて2次筆記試験勉強開始
- ・2013年12月:2次筆記試験、口述試験合格

### 【基本的な学習サイクル】

- ・平日:出勤前に2時間+昼休みや帰宅途中など30分
  - ・休日:土日いずれか1日は講義受講 or 図書館で自習/いずれか1日はオフ
- ※直前2ヶ月などは土日2日とも学習に充てていました。

継続した学習での知識や解法の定着が有効と考えていたため、平日出勤前に必ず時間を取るようになっていました。土日の講義内容の浸透や定着という面でも、平日の学習積み重ねが非常に有効だったと感じています。

### 【1次試験の学習】

1次試験はシンプルに某大手予備校の市販のテキストでのインプット、問題集・過去問集でのアウトプットの繰り返しを行いました。

最終的な目標はあくまでも過去問レベルの問題に解答できるようになることなので、効率的に進める方法としては、アウトプットを重視し、

- ・間違ったところを抽出してまとめ、正答精度を高める
  - ・難易の見極めができるようにする
  - ・皆ができる問題を確実に取れるようにする
- あたりかと考えています。

なお、財務会計分野に弱みを感じていたため、1次学習と並行して、12年2月に実施の簿記3級試験を受験、合格しました。2次にも影響する重点科目である財務会計の理解が進んだという点で有効だったと思います。

## 【2次試験(2012年:1回目)の学習】

1次試験に集中していたため、1次合格後の勉強着手となりました。某大手受験期間の2次対策講座で勉強を開始するものの、2次筆記試験に対する明確な解法が無く、8月から9月中旬にかけては、手探り状態で学習を進めていました。

そんな中、9月中旬に受けたMMCの第4回模試での模範解答集に掲載されていたMCサークルに基づいたMMCの解法が自分にはとても分かりやすく、それ以降はMMCの模範解答集を何度も見返しながら学習に取り組みました。

本試験までの1ヶ月の間で事例1,2は何とか自分なりにMMCの解法が吸収でき、本番でもそれなりの解答ができたのですが、事例3以降で崩れてしまい、残念ながら不合格となってしまいました。(1年目の評価:AACCの総合B)

この年度の敗因としては…

### ●①全事例共通

どのような事例にも対応できる、確固たる解法を自分のモノにできていなかった点

### ●②事例4

計算問題に対する慣れが不十分だった点

が挙げられると考えています。

※②については、対策の一つとして簿記2級の学習を本試験終了後すぐに開始、13年2月に受験し合格しました。

## 【MMCを選んだ理由】

①明確な解法がある点、②合格率が高い点 が挙げられます。

### ●①について

2012年:1回目の本試験にて、MMC解法のおかげで手応えのあった事例1,2が実際にA評価であったことで、しっかりと自分のモノにできれば合格できるに違いないと確信し、2次不合格判明後、すぐセミナーに参加、年明けから受講することに決めました。

個々の事例に対応するための場当たり的な解法ではなく、各事例に汎用的に対応できるMCサークルのような解法がある、というのは80分での迅速な現場対応が求められる本試験では心強いものかと思えます。

### ●②について

また、過去の50%を超える高い合格率も決断を後押しした理由です。

## 【2次試験(2013年:2回目)の学習】

13年1月より通学コースでの受講を開始しました。

①MMCの講義や答練に集中し、他の事には手を広げない

②財務は毎日1時間は必ず取り組む

ということを心がけました。

## ●①の理由

解答も発表されず、採点基準も不明確な2次筆記試験であるため、様々な解法アプローチがあるのも事実です。ただあまりにも手を広げすぎると結局何も自分のモノにできず、消化不良になってしまうのではないかと思います、MMCの講義・答練に集中する、ということに決めました。

具体的に行っていたことといえば、

- ・答練(1回目)で指摘されたポイントをまとめる
  - ・再答案を時間を空けずに提出する
  - ・その中での気づきや発見を自分の鉄則としてまとめる
- その繰り返しによる精度向上、を行っていました。

## ●②の理由

こちらも同じく、手を広げすぎずにMMCでの答練および財務計算問題に集中して繰り返し取り組みました。手を動かさないとすぐに忘れてしまうのが計算問題の特徴なので、出勤前の時間や昼休みを活用し、1日1時間程度は必ず取り組むようにしていました。

取り組む際に留意していたことは

- ・各問題ごと、取り組む前に所要時間の目安を決める
  - ・取り組んだ日、正誤、気づきや発見を記録する
- それらにより同じミスの削減、各問題の難易度高低の見極める力の向上を図るです。

なお、8月中旬以降は初見ではありませんでしたが、過去問に重点的に取り組むようにしました。答練では学習的要素が強いため、与件文にヒントがちりばめられていることが多いですが、本試験問題では要求事項が曖昧と感じる設問がどの事例も少なくとも1問はあるということを感じており、本番で戸惑わないよう慣れておきたい、というのがその理由でした。

本試験直前における初見問題への対策としては、MMCでの模試や直前スパーリングとして行われる模擬4事例×2回などを活用しました。

## 【有効だったトレーニング】

①問われていることに漏れなく答えるために：設問→金型トレーニング

MMCの答練や過去問の解説をもとに、問われていることに対して、瞬時に解答の金型を引き出すためのトレーニングを行いました。

具体的には、

- ・こう問われれば
- この要素とこの要素でできるだけ多面的に書く  
というものを、問われている事項ごとにまとめて一覧にして繰り返し見返すことですぐに引き出せるようトレーニングを行いました。

<例として>

(設問)

- ・組織的要因と改善策は何か？

(金型)

- ・人事面で●●、組織面で●●、により●●が生じているため、改善策として■■を助言する。

## ②分かりやすく書くために: 与件→要約トレーニング

上記金型の●●部分には、与件文から引用して書くことになるのですが、与件文からそのまま引用しても冗長になるため、要約のトレーニングを行いました。

具体的には、MMC の答練や過去問の解説をもとに、

- ・与件文より引用すべき部分を適切に見出し

→その内容を一言でまとめると何になるか

というものをまとめた一覧を作成し、トレーニングを繰り返しました。

これに関しては、実際に手を動かして書く、ということに注力しました。

<例として>

(与件)

- ・～60 歳代前半の工場長(役員)と 50 歳代後半の部長が～
- ・～管理職として採用した 50 歳代の社員が～

(要約)

- ・経営幹部の高齢化

## ③差別化するために: キーワードトレーニング

上記金型の■■部分に書くべき、具体的な改善策については、MMC でも推奨されていた通り、キーワードマトリックスを作成し、同じく瞬時に引き出せるようにトレーニングを行いました。

<例として>

- ・プロジェクトチームの導入
- ・成果連動型報酬制度の導入

●①②③をまとめると、

- ・設問文を読み、
- ・金型で解答すべき枠組みを決め、
- ・解答枠組み内に与件文の要約をあてはめ、
- ・キーワードで説得力を持たせて
- ・引き締まった解答を書く

を意識していたということになります。

## 【本試験に臨むにあたって心がけていたこと(スキル面)】

本番の緊張感などで頭が動かなくなってしまった際でも、解答に空欄を作らないようにするため、困った時の対処法を自分なりに持っておきました。

具体的に有効だったのは…

- ・設問文をそのままオウム返しに記述する
- ・現状の強みを更に強化する提案を行う

の 2 点です。

これを意識することで、結果的に設問や与件に沿った素直な印象の解答になったのではと考えています。上記に限らず、自分なりの「困った時のジョーカー的な対応」はシンプルなものをいくつか持っておくことをお勧めしたいと思います。

### 【本試験に臨むにあたって心がけていたこと(メンタル面)】

特に2次筆記試験では、試験に臨む際の集中力やコンディションが答案の出来を大きく左右すると感じていました。そのため、本試験で万全のコンディションで臨めるよう、MMCで4回行われる模擬試験、試験直前に行われる模擬4事例スパーリングを有効な機会と捉え、すべて本試験を想定した行動をとるようにしていました。具体的には、各模擬試験や模擬事例に臨むにあたって、前日の夜の就寝時間、当日の起床時間、当日の出発時間、現地近くのカフェで何をするか、各事例の合間の時間はどうぞすか、お昼は何を食べるか、など、すべて決まったサイクルで行動するようにし、本試験当日に万全の体制で臨めるように心がけました。

### 【本試験後】

事例1~3ではまずまず書けた感覚があったのですが、事例4で、

- ・経営指標の選定の重複(負債比率と自己資本比率を選定)
- ・出資直前の経営指標の一つ(当座比率にその他流動資産を含めて計上)
- ・出資直後の経営指標数値の全て
- ・定額法・定率法とも、5年間の営業CF数値
- ・少数株私債と判断
- ・手元残の金額数値

など、大きなミスを連発してしまい、足切りでの不合格も覚悟していましたが、幸いにも合格という結果を得ることができました。各事例の評価は不明なのであくまで想定ですが、事例1~3および事例4の記述部分で、設問要求が曖昧な中でもMMCメソッドに倣って素直にシンプルに解答することを心がけたことが奏功したものと感じています。

### 【最後に】

最後まで真摯に熱くご指導頂いたMMCの先生方には改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。また、受験仲間・家族・友人など、周りの様々な方の支えがあって合格できたものと感じています。感謝の気持ちを忘れず、今後の仕事にも有意義に活かして行きたいと思っています。